

第32回日本証券アナリスト大会を終えて

大会実行委員長 大類 雄司
(みずほ銀行)

第32回日本証券アナリスト大会は、去る10月13日（金）に経団連会館の国際会議場・大ホールにて開催された。今大会の延べ参加者総数は、記念講演・パネルディスカッション及び懇親パーティーも含めると、1,200名もの大勢の方々にご参加いただいた。まずは、会場にお運びいただいた皆さまに厚くお礼申し上げたい。大会を成功裏に終えることができたのも、ご多忙の折ご参加くださったご来賓や記念講演にご登壇された講師・パネリストの方々、そして入念に準備を進めていただいた大会事務局及び実行委員諸氏のご尽力の賜物であると切に感じている。この紙面を借りて深く感謝申し上げたい。

筆者は、昨年の第31回日本証券アナリスト大会「AI・IoT革命に挑戦する企業とアナリスト」に実行副委員長として、微力ながらも許斐委員長をお支えする形で携わらせていただいた。昨年の大会が非常に盛大に行われたこともあり、大会事務局から実行委員長就任の依頼を受けた際、「果たして務まるであろうか」との思いがあったものの、大変な名誉であり拜命することとした。実行委員諸氏から筆者の実行委員長就任をご賛同いただいた際にも、改めて身の引き締まる思いであった。



総合司会の大類大会実行委員長

当大会の実行委員会では、大会テーマ、講師、パネルディスカッションの司会者やパネリストに関し、実行委員向け事前アンケート結果をもとにこれまでの大会テーマ等も踏まえ活発な議論が行われた。大会テーマに関しては、トランプ政権発足やブレグジット（Brexit）等保護主義的色彩の強まる国際政治情勢の大きなうねりの中で企業戦略の不透明さが見られる向きを背景としたグローバル経済下の企業戦略や成長戦略の在り方から、スチュワードシップ・コードとコーポレートガバナンス・コードによる建設的な対話（エンゲージメント）を踏まえたディスクロージャーの在り方や「働き方改革」を踏まえた企業経営の在り方

で、国内外の政治経済情勢や近年の企業経営課題等を踏まえた意見が幅広く挙げられた。どのテーマも興味や関心を惹きつけるテーマであったが、様々な議論を経て会議では激動の時代における企業戦略を中軸に据えることで筆者、副委員長及び事務局一任となった。事務局主導による講師及びパネルディスカッションの司会者・パネリストの候補者への就任依頼のプロセスを経つつ、今年のテーマは、委員の議論の中でも最も関心の高かったグローバリズムの変容とかかる環境下における企業経営の在り方に注目し、「グローバリズムの危機と企業・アナリストの対応」とした。

本大会が盛会となった要因は、ひとえに大会テーマでもあるグローバリズムに深い識見を持たれる魅力的な登壇者にご参加いただけたことにあると考える。大会は、(株)岡三証券グループ代表取締役社長でCMAでもある新芝宏之当協会会長による開会の辞で始まった。新芝会長は、フェア・ディスクロージャー・ルール等の「制度改革」やAI等の「IT革新」といった基本的な潮流の変化を目前に、今後、アナリストの真価が問われる時代ではなかろうか、と説かれた。参加者の方は改めて大きな時代の節目を感じられたものと思われる。

記念講演Ⅰは「『まさか』の時代の市場と経済」と題し、(株)日本経済新聞社編集委員の滝田洋一氏から、各種データをもとに不確実な時代における社会経済情勢に関し鳥瞰的視点からのご講演をいただいた。わが国を代表する経済紙の編集委員によるグローバルな社会構造の変化と日本の特徴、及びそれが経済活動等に与える影響の視点は、大会テーマのグローバル経済の実態について参加者に有益な示唆を与えたのではなかろうか。

記念講演Ⅱは「日立の構造改革と社会イノベーション事業」と題し、(株)日立製作所取締役会長の中西宏明氏から、ご自身の「社会イノベーション

事業」を軸としたビジネスの構造改革のご経験を交えつつ、製品のコモディティ化やビジネスモデルの変革といったパラダイムシフトを迎えた現在におけるビジネスの構造改革とその実行の必要性をご講演いただいた。グローバルな顧客ニーズの変化を踏まえたビジネス変革の重要性、新しい時代におけるグローバリズムへの対応の必要性を改めて意識させていただくものであった。

パネルディスカッションでは、ボストン コンサルティング グループのシニア・パートナー & マネージング・ディレクター秋池玲子氏の司会の下、(株)資生堂代表取締役社長兼CEOの魚谷雅彦氏及び丸紅(株)代表取締役社長の國分文也氏、ならびに金融アナリストのご経験を持ち、かつ政府委員の就任経験のある(株)小西美術工藝社の代表取締役社長デービッド・アトキンソン氏からなるパネリストにより大会テーマに関し意見交換をいただいた。大企業経営者の若い頃からを含めたご経験をベースとする企業経営の取組み目線から、わが国の根本的課題である労働生産性等の議論まで、バラエティーに富んだディスカッションで、総合司会者でありながら、興味深く拝聴させていただいた。新芝会長が開会の辞でも触れたアナリストの役割期待の変革の必要性に関する意見がパネリストから示されたことも大変印象的であった。

証券アナリストジャーナル賞の表彰及びディスクロージャー優良企業表彰の後、本大会副委員長奥崎智之氏の司会の下、新芝会長の御発声により、懇親パーティーが開催された。多くの方とお話させていただいたところ、本大会の感想や評価は概ねよいものであり、実行委員長として改めて安堵した。本大会が大きな転換点を迎えたグローバリズムやわが国の社会経済構造を踏まえた企業・アナリストの変革の着眼点をわずかでも提供できたとすれば、望外の喜びである。